

## 活動報告：ぶんぶんひろば

### 1. 活動のねらいとその成果について

子ども・子育て支援研究センターの3歳未満児対象の活動である「ぶんぶんひろば」は、当センターの仮開設以来、週2回の活動を続けてきた。この活動のねらいは3つある。1つは、本学園の学生の教育のための利用であり、2つ目は、地域の子育て家庭への支援、3つ目は、子育て支援に関する研究である。当センターの開設2年目に当たる平成23年度には、学生の教育のための利用と地域貢献を機能的にリンクさせることができ、所定の成果をあげた。

### 2. 活動の内容

#### (1) 学生の教育への利用について

今年度の授業への利用は、学芸学部音楽学科の「演奏活動Ⅰ」（前期：6回）、「演奏活動Ⅱ」（後期：5回）、「音楽療法」（前期：1回）、学芸学部子ども学科の「保育内容（造形表現）」（前期：2回）、短期大学保育学科の「家庭支援論」（前期：2回）であった。短期大学の卒業研究では、手作りおもちゃの使い方を観察し、おもちゃを改善するためのアイデアを得た。その他にも、高大連携公開講座の「赤ちゃんが教えてくれる発育・発達」では近隣の高校生への授業を行ない、高校生に赤ちゃん体験の場を提供できた。また、子ども学科の「子どもまつり」の際には、スタッフとともに学生が託児を体験した。

次に、授業での利用の例を詳しく述べる。「演奏活動Ⅰ」では前期に6回、「演奏活動Ⅱ」では後期に5回、演奏を披露する場として利用した。その「ミニ演奏会」の例を表1に、演奏会での様子を写真1に示す。「ぶんぶんひろば」は大学の

授業が実施されている期間の火曜日と金曜日に午前10時30分から午後3時まで実施している。11時30分から始まる演奏会は参加しやすい時間のために多数の来場があり、演奏会のある金曜日には利用者が増加した。この授業は、子どもを対象とした演奏会のプログラム構成や演奏マナー、説明の仕方や表情、演奏時の視線の配り方、演出の仕方などを学ぶことを目的としている。保護者や子ども達の反応の録画や、毎回実施したアンケートを利用することにより、学習を深めることができた。

その他の授業においても、目の前の子ども達や保護者からすぐに、フィードバックが得られる体験は授業における学習を充実させ、大きな教育効果が得られた。写真2に授業「家庭支援論」での学生の様子を示す。保育学科の卒業研究においては、作成したおもちゃを子ども達に使ってもらい、それを参考にして改善を加えた。その布絵本作品は当センターに常設し、頻繁に利用されている。

#### (2) 地域の子育て家庭への支援について

「ぶんぶんひろば」は、前年同様、火曜日と金曜日の午前10時30分から午後3時まで開設され、多数の子育て家族の来場があった。平成23年度の各月の実施回数、利用組数、利用者数を表2に示す。延べ利用人数は子ども1,377人、大人1,152人、合計2,529人であった。

表1 授業「演奏活動Ⅰ」の例

題	「子どものための音楽会」
日 時	5月18日（金） 11：30～12：00
演奏者 （6名）	A（トロンボーン）、B（トランペット） C（トランペット）、D（ホルン） E（クラリネット）、F（ピアノ）
演奏曲目	アンパンマン、となりのトトロ おはなしゆびさん、ドラえもん 天空の城ラピュタ、ぞうさん ミッキー、ジブリメドレー トウランドット

表2 平成23年度の実施回数と利用状況

月	2011/4	5	6	7	8	9	10	11	12	2012/1	2	合計
実施回数	6	8	8	8	3	2	8	7	6	6	5	67
利用組数	98	68	157	199	76	31	126	127	97	77	77	1133
平均利用組数	16.3	8.5	19.6	24.9	25.3	15.5	15.8	18.1	16.2	12.8	15.4	16.9
利用者数	子ども	120	80	181	243	111	40	156	149	112	92	1376
	大人	99	68	160	203	80	33	128	127	99	78	1152
	合計（人）	219	148	341	446	191	73	284	276	211	170	169



写真1 授業「演奏活動Ⅰ」での様子



写真2 授業「家庭支援論」での様子

ミニ演奏会が定期的に行われた金曜日の利用者は昨年に比べ増加した。また、食堂などを利用し、一回の利用時間が長くなる傾向が見受けられた。7月、8月に実施したテラスでの「水遊び」も人気があり、利用者が増加した。「マンションなどの住居では水遊びができないので、それができるとありがたい」という切実な声もあり、子育ての現状を知る機会となった。

### (3) 子育て支援に関する研究について

センターの利用者は着実に増え、登録家族数は413となった。子どもの年齢が上がり、ぶんぶんひろばを「卒業」していく家族もあるが、利用家族数は確実に増えている。「引っ越してきた直後で有り難かった」、「子育て仲間ができた」、「次の子どもを産もうと思った」などの声も聞いた。本センターでの出会いが地域の子育て支援に貢献していると考えられる。より積極的に地域での子育て仲間の組織作りが支援できるように具体的な方法を提示する必要がある。そこで、平成23年度には参加者同士の交流をはかるために掲示板を設置して子育てサークルのチラシを置く場所を作り、お互いの情報が交換できるよう配慮した。

地域の子育て支援者と子育て家庭との橋渡しの活動は引き続き今後の課題である。平成24年度には地域において、自然体験の豊富な人や特技を持った人などを募り、子育て支援の輪を広げていく方策を考えたい。

### 3. 安全上の改善点

今年度は、安全上の問題点を4点改善した。有事に備えて「さすまた」を備え付け、緊急事態を事務室に知らせるベルを設置した。また、ベルが



写真3 緊急事態へ対応するための設備(赤色灯、扉)

鳴るときに同時に点滅するように、センター外壁に赤色灯を設置した。もう1つの改善点はテラスの扉である。テラスからも避難できるようフェンスに非常用扉を設置し、危急の折に迅速に安全な場所に誘導できるよう配慮した。さらに、気象警報が出された際の「ぶんぶんひろば」の開催について規定を作成した。

### 4. 今後の展望

開設から2年が経過し、「ぶんぶんひろば」の運営も一応軌道に乗ったといえる。ただ一方では、1家族の滞在時間が長くなる傾向があり、赤ちゃんや子どもの育ちに与える影響を考慮する必要も生じた。赤ちゃんや子どもには、より自然な保育環境での体験が必要である。今後は子育てにおける自然体験の必要性を示し、その具体的な方法を伝えていく必要があると思われる。平成24年度には「子育てにおける自然体験」をテーマに子育て支援を展開する計画である。

(文責：ぶんぶんひろば担当 田頭伸子)